

第1次

# 島マス年譜

基地の街に挑んだ福祉の母 88年の記録



島マス  
生誕  
百年祭

島マス生誕百年祭実行委員会

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
<b>明治32年</b> 1899 <b>明治33年</b> 1900 3月	<input type="checkbox"/> 美里間切伊波村（現石川市）で伊波松・カナの三女（兄弟は一男三女）として誕生／13日。	<input type="checkbox"/> 初の女性教員 10 名が誕生する。  <input type="checkbox"/> 謝花昇ら農工銀行役員改正選挙に敗北。 <input type="checkbox"/> 治安警察法制定。
	<p>幼い頃の「貧しかった」という思い出は、今でも鮮明に残っている。自分の畑を持たない父は、小作や日雇いをして生計を立てていたが十分ではなかったのだろう。イモさえ満足に食べられず、いつも腹を空かしていた。お盆の時、ほとんどの家は十五銭の白髪そうめんを買うが、わが家ではすぐ煮崩れする十銭の安そうめん。わずか五銭のぜいたくも許されなかった。…日のあるうちはヤギの草刈りや薪取りと、家の手伝いで忙しいから、勉強するのは夜になる。それもランプの石油がもったいないので「トブシ」（松の根っ子の燃える処）を切ってきて灯した。大変明るくなるのだが、黒い煙が出るため、いつも鼻の穴が真っ黒になったものだ。</p> <p>（『私の戦後史 第3集』）</p>	
7月  12月		<input type="checkbox"/> 県立第一高等女学校創立。  <input type="checkbox"/> 群視学を設置。 この頃、沖縄県の人口 465,470 人余。
<b>明治35年</b> 1902 4月		<input type="checkbox"/> 美越尋常小学校が分立して越来尋常高等小学校となる。
<b>明治36年</b> 1903 3月		<input type="checkbox"/> 当山久三、移民 40 人と共にハワイに渡航する。 <input type="checkbox"/> 政府主催の第5回内国勸業博覧会が大阪で開催、それに合わせて「学術人類館」が開館、沖縄女性を陳列して差別抗議の声が高まる。
<b>明治37年</b> 1904 1月  2月		<input type="checkbox"/> 土地整理が完了し、私有財産制が認められる。 <input type="checkbox"/> 日露戦争勃発、沖縄から 2 千有余人が出征し 205 人が戦死する。
<b>明治40年</b> 1907 4月	<input type="checkbox"/> 中頭郡伊波尋常小学校へ入学。 この年、長兄の幸繁がハワイへ出稼ぎ移民する。	この頃から学校教育に罰札制度（放言札）があらわれる。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
<b>明治41年</b> 1908 4月		<input type="checkbox"/> 6年制の義務教育が実施される。
<b>明治42年</b> 1909 4月 5月		<input type="checkbox"/> 特別町村制施行、間切が村、村が字と改められる。 <input type="checkbox"/> 初の県会議員選挙が行われる。
<b>明治43年</b> 1910 8月		<input type="checkbox"/> 県立図書館開館、初代館長に伊波普植就任。
<b>明治45年</b> 1912 3月 4月	<input type="checkbox"/> 中頭郡伊波尋常小学校卒業。 <input type="checkbox"/> 中頭郡美里尋常高等小学校へ進学。 ～伊波小学校からの進学者は5人。	<input type="checkbox"/> 初の衆議院議員選挙が行われる。 <input type="checkbox"/> 県立二中、首里より嘉手納へ移転する。
	<p>伊波尋常小学校には高等科がなかったため、一里半（約6キロ）も離れた美里尋常高等小学校へ通うことになったのです。毎日、伊波から東恩納へ出て、坂道を下り橋のない川を渡って栄野比へ上って行きました。この道は、大変な難所でした。・・・雨で増水した時など、近くの農家の人におぶって渡して貰うこともありました。</p> <p>（『島マスのがんばり人生』）</p>	
<b>大正2年</b> 1913 5月		<input type="checkbox"/> 越来村宇久田小学校創設／19日。
<b>大正3年</b> 1914 7月		<input type="checkbox"/> 第一次世界大戦勃発。
<b>大正4年</b> 1915 4月	<input type="checkbox"/> 沖縄県女子師範学校本科第一部入学／6日。	
	<p>師範学校は、いわゆる「官費」の学校ですから学費は免除でした。しかし、全寮制でしたから、月に1円の舎費は自己負担でした。この金額は、私の家庭にとっては、大きな負担でした。女子師範に合格したものの、両親がなかなか承知しなかったわけです。私の学費は、母がシャリ（芭蕉の糸で織った魚網）を作り、姉がアダン葉帽子を編んで、その工賃で準備してくれることになりました。舎費を滞納すると退学処分を受けます。このため、私はよく病気になりました。布団を頭からかぶって寝て、一步も出ないのです。舎費を納められないのですから、舎監の目を逃れるには病気になるしかなかったのです。</p> <p>（『島マスのがんばり人生』）</p>	

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
6月		□国頭街道（那覇～嘉手納～名護）が開通。
<b>大正5年</b> 1916		
1月		□沖縄県女子師範学校が沖縄県立高等女子学校に併置される／5日。
12月		□与那原～泡瀬間の馬車軌道開通する／18日。
<b>大正7年</b> 1918		
4月		□泡瀬～勝連村南風原間の泡瀬街道開通する／14日。
11月		□第一次世界大戦終結。
<b>大正8年</b> 1919		
3月	□沖縄県女子師範学校本科第一部卒業／18日。	
<div data-bbox="400 869 740 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>教 職 時 代</b> </div>		
4月	□沖縄県より国頭郡山田尋常高等小学校訓導に任命される／1日。マス 20 歳。 □恩納村婦人会長に選任される／1日。	
<div data-bbox="284 1131 1273 1668" style="background-color: #f9cb9c; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <p>山田尋常高等小学校に赴任した時の給料は4円50銭でした。私の給料で一家の生活を支えることになりました。小学校の教師は「字受け待ち」といって校区内の各部落に割り当てられ、地域の人達と日常生活をともにしました。受け待ちの部落に住むことが規範とされ、今の社会教育のようなことも担当させられたことになります。また、女教師は地域の婦人会活動の指導者でもありました。この頃、愛国婦人会沖縄県支部というものがありませんでしたが、村の婦人会はその下部機関であったと思います。愛国婦人会は、忠君愛国の精神をうえつけるための婦人組織でした。例えば出征軍人の見送り、戦死者の葬式に参列すること、軍人遺家族の慰問など、上から押しつけられた任務がありました。しかし、私たちが主としてやったことは、消費節約・風俗改良・冠婚葬祭の簡素化・衛生・火災防止などの運動でした。お上からいわれたからやったというよりも、私たちがなりに農村の生活の改善を考えていたわけです。</p> <p style="text-align: right;">(『島マスのがんばり人生』)</p> </div>		
<div data-bbox="906 1742 1394 1792" style="background-color: #d3d3d3; padding: 5px; border: 1px solid #ccc; width: fit-content; margin: 0 auto;">         この年の、砂糖相場の大暴落始まる。       </div>		
<b>大正10年</b> 1921		
1月		□柳田国男、折口信夫が民族研究のため来県。
4月	□沖縄県より国頭郡伊波尋常高等小学校訓導に任命される（転勤）／19日。	

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
5月  <b>大正11年</b> 1922	<p>この年、山田尋常高等小学校教頭夫人（島有剛の実姉）の仲立ちで具志川尋常高等小学校教師の島有剛（屋号・中徳元の次男）と結婚し「島マス」となる。マス 22 歳姓改正は 12 月 19 日付け。</p>	<input type="checkbox"/> 那覇、首里に市制が施行される。
3月  <b>大正13年</b> 1924	<p>この年、第一子「初子」を出産、その後 5 男 2 女を授かる。</p>	<input type="checkbox"/> 県鉄嘉手納線が開通する。  <input type="checkbox"/> 沖縄－阪神航路が開始。
8月  <b>大正15年</b> 1926	<p>私は美里村字東恩納の生まれで、伊波尋常高等小学校で 5 年と 6 年の時にマス先生にお世話になりました。大正 12 年と 13 年のことです。先生は若い時から活発で、小柄な体から男まさりの大声を出される方で、勇気もおありでしたので、私たちも自然にはきはきとして隣の男組に負けないうらいみんな元気でした。ある時、国語の時間にあまり大きな声で本を読むので、ジャマになって困ると隣の教室から注意を受けたことも忘れられません。            （平 フミ）</p>	<p>この年、ソテツ地獄と呼ばれる経済恐慌起こる。</p>
1月  <b>昭和2年</b> 1926	<p>この年、長女の初子を脳膜炎で失う。</p>	<input type="checkbox"/> 普通選挙法が施行される。  <input type="checkbox"/> 教員・師範学生が社会科学研究会を結成。
3月  <b>昭和3年</b> 1928		<input type="checkbox"/> 国際婦人デーに連帯して開かれた沖縄初の婦人解放集会が那覇市公会堂で開かれる／8日。
3月  <b>昭和4年</b> 1929		<input type="checkbox"/> 小学校教員や師範生らの社会科学研究会が弾圧される。  中頭郡の教員 20 人余が農村の青年と連帯し台南製糖社に対して搬入条件改善の争議を計画したことによる。
4月  5月	<p>4月 <input type="checkbox"/> 沖縄県より中頭郡越来尋常高等小学校訓導に任命される（転勤）／1日。  <input type="checkbox"/> 越来村より越来村女子青年学校教諭に兼務任命される／1日。            5月 <input type="checkbox"/> 越来村胡屋に移り住む。            越来村婦人会長に選任される／1日。            マス 30 歳。</p>	<input type="checkbox"/> 女教員研究会設立。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
	<p>マス先生が伊波の学校から赴任されたのが昭和4年で、その頃、すでに胡屋人（ぐやんちゅ）になられ、胡屋大通りの商店街に大きな二階建ての居を構えられ、ご夫婦ともに学校の教師をして居られ、地域の指導者として信頼を得ておられました。その頃は、地域や家庭で、母に、オカァさん、オカーと呼ぶものはなく、胡屋でもほとんどありませんでしたので、オカーといえは中徳元（島家の屋号）のオカーであり、島マス先生の呼称でした。学校でも先生と呼ばずに、オカーと通し、マス先生の代名詞ともなっていました。ある算数の時間に、コンペイというお菓子を教室に持ち込まれての授業は、普段食べたことのないコンペイを分け与えられたことと合わせて、50才を過ぎた今日でも同期生の語り種になっており、思い出となっています。</p> <p style="text-align: right;">（中根 章）</p>	
<p><b>昭和5年</b> 1930 5月</p>		<p><input type="checkbox"/>那覇東町に沖縄山形屋開店。</p>
<p><b>昭和6年</b> 1931 2月</p>		<p><input type="checkbox"/>満州事変勃発。  <input type="checkbox"/>沖縄教育者労働組合（OIL）結成。  <input type="checkbox"/>M T L 相談所開設（翌年国頭愛楽園となる）。  <input type="checkbox"/>児童虐待防止法公布。</p>
<p><b>昭和8年</b> 1933 <b>昭和12年</b> 1937 7月</p>		<p><input type="checkbox"/>支那事変勃発。</p> <p style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">この年、県教育会は、本県人の読み変えるべき姓 84 を発表。</p>
<p><b>昭和13年</b> 1938 2月 10月</p>		<p><input type="checkbox"/>国家総動員法が公布される。  <input type="checkbox"/>国民精神総動員沖縄実行委員会が発足する。</p> <p style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">この年、琉装全廃運動起こる。</p>
<p><b>昭和14年</b> 1939 9月</p>		<p><input type="checkbox"/>第二次世界大戦勃発。</p> <p style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">この年、山口学務部長が教員の大異動を発表（山口旋風）</p>
<p><b>昭和15年</b> 1940 1月 4月</p>	<p><input type="checkbox"/>沖縄県より中頭郡喜舎場尋常高等小学校訓導に任命される（転勤）／1日。  <input type="checkbox"/>中城村より喜舎場女子青年学校教諭の兼務任命される／1日。</p>	<p><input type="checkbox"/>中頭郡教員 600 名が燈油用の石油増配を県に陳情する／25日。</p>

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
12月		<input type="checkbox"/> 大政翼賛会沖縄県支部が結成される。
<b>昭和16年</b> 1941		<input type="checkbox"/> 国民学校令が公布され、尋常小学校は国民学校となる。
4月		<input type="checkbox"/> 太平洋戦争始まる／8日。
12月		<input type="checkbox"/> 翼賛会支部主催の「必勝国民大会」が開催される。
<b>昭和17年</b> 1942		
6月		<input type="checkbox"/> ミッドウェー海戦で日本艦隊が大敗、戦線が日本本土へ北上する。
<b>昭和18年</b> 1943		<input type="checkbox"/> 大日本婦人会県支部結成される。
7月		<input type="checkbox"/> 東條英機が来県する。
		<input type="checkbox"/> 防空演習、竹槍訓練が各市町村で盛んに行われる。
		<input type="checkbox"/> 動員体制を整えるための告示が次々と発令される。
		<input type="checkbox"/> 日本軍によって16カ所の飛行場建設が各地で始まる。
<b>昭和19年</b> 1944		
3月		<input type="checkbox"/> 決戦教育要綱を決定し、授業を停止する。
5月		<input type="checkbox"/> 南西諸島に第32軍が配備される。
7月		<input type="checkbox"/> 戦時教育令公布される／22日。
8月		<input type="checkbox"/> 南洋群島のサイパン玉砕。
10月		<input type="checkbox"/> 県民、学童の県外疎開始まる。
		<input type="checkbox"/> 学童疎開船対馬丸が撃沈される。
		<input type="checkbox"/> 那覇を中心に大空襲／10日。
		<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;">           美里村字石川の石川朝子さんを中心にして昭和16年につくられた「軍人妻の会」、「軍人母の会」が、この年、全県下に結成されるようになる。         </div>
<b>昭和20年</b> 1945		
2月		<input type="checkbox"/> 県は各市町村の疎開地を指定し、疎開を実施するよう伝達する。
3月	<input type="checkbox"/> 夫婦・子供4名で北部の羽時村源河へ疎開／25日。マス45歳。	<input type="checkbox"/> 満15才から45才の男女全員が現地召集される／5日。
		<input type="checkbox"/> 米軍は沖縄本島へ一斉に艦砲射撃を開始、日本軍は住民の避難を命じた／23日。
		<input type="checkbox"/> 宇久田国民学校炎上、胡屋地域空爆受ける／29日。
		<input type="checkbox"/> 越来国民学校空爆受ける／31日。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
4月 5月 7月 8月	<p>□北部のウフシタイに着き、さらに久志村三原の山中へ移動／2日。</p> <p>□瀬嵩難民収容所へ収容される／2日。</p> <p>沖縄地上戦で、長男正隆・次女邦子を失う。</p> <p>□瀬嵩難民収容所内での児童教育が始まり、島マスは幼稚園と高等科の家庭科を受け持つ。</p>	<p>□米軍は慶良間列島の渡嘉敷島に上陸、沖縄戦が開始された／25日。</p> <p>□米軍は読谷・北谷海岸から沖縄本島に上陸／1日。</p> <p>□越来村嘉間良一帯が難民収容所となる／2日。</p> <p>□石川に石川学園開校／7日。</p> <p>□嘉間良収容所（キャンプ・コザ）に小学校4校開校。</p> <p>□日本の無条件降伏／15日。</p> <p>□石川で沖縄仮諮詢会開催／15日～29日には諮詢委員会として発足</p>
	<p>浜に子どもたちを集めて砂の上に字を書いたり、貝殻を拾ったり、そんな学校でした。教師も子供たちも虚脱状態で、飢えて目はうつろでした。私は家庭科の担当になって、ひとつの考えがひらめきました。瀬嵩の隣部落の大浦に米軍が駐屯していたので、英語のよくできる城間盛善さん（のちの越来村長）に同行してもらって、家庭科の材料を提供して頂くように交渉しました。ナベもなんも道具もないのだが、ウソも便利です、油一缶、米一俵、麦一俵を貰ってきて、みんなに配給しました。米軍は、ナベその他の調理用品もくれました。</p> <p>（『島マスのがんばり人生』）</p>	
9月 10月		<p>□日本政府内務省は各都道府県に対し「外国駐屯慰安施設設置整備要項」を通達／18日。</p> <p>□越来村森根で日本軍沖縄部隊の降伏調印式が行われ沖縄戦は実質的に終結した／7日。</p> <p>□地方行政緊急措置要綱によりキャンプ・コザ地区が胡差市（人口約2万人）となる／15日。</p> <p>□市民議員選挙が実施され婦人の参政権が行使される／20日。</p> <p>□難民収容所が廃止され帰村のため人口移動が始まる／31日。</p>
昭和21年 1946 1月 4月	<p>□石川へ帰還、母親と姉に再会する。</p> <p>□沖縄諮詢会より石川市大洋初等学校教官に任命される／1日。</p>	<p>□胡差市が越来村に戻る／4日。</p> <p>□胡屋区に中央病院開設（前米軍野戦病院、1951年にはセンターに移転）。</p> <p>□沖縄中央政府が東恩納に創設される／22日。</p> <p>□米軍政府よりの生活用品無償配給が廃止され有償になる／26日。</p> <p>□「貨幣経済下に於ける社会救済事業機構」布告、各市町村に救済委員を配置する。</p>

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
5月		□賃金制実施される。
6月		□「沖縄住民救済規定案」公布される/6日。
<b>昭和22年</b> 1947		
1月		□孤児院、養護院が5カ所（田井等・福山・石川・胡差・百名）に統合される。
2月		□託児所規則を制定。
3月		□米軍政府、全島にわたり住民の移動通行を許可/22日。
5月		□米軍政府、「婦女子の性的奴隷制の禁止」「占領軍人の売淫禁止令」「花柳病取締令」を施行/31日。
7月		□日本本土で日本国憲法施行。
10月		□少年教護院規程制定。
		□婦人連盟結成される/1日。
		□ララ物資、米軍からの沖縄救済乳山羊 194頭到着/24日。
	<p>この年あたりから「婦人会をつくろう」という全県的な呼びかけが始まった。島マスは「婦連のハーメー」という歌を作り、各地区の婦人だけでなく男性へも協力を求めた。</p>	
	□大洋初等学校を依願退職し、教職を離れる/31日。マス 48 歳。	
	□越来村へ移住、現沖縄こどもの国付近の原野に居住する。	

島マスさんは、戦前から終戦直後まで教職にあつた。1946年教員給与が現金で支払われることになり、初めて300円貰えるようになり生活も安定すると喜んでいたという。まだテント生活だったが、台風銀座といわれた沖縄に台風が来襲すると、まずテントを飛ばさないようにするのが第一の対策だった。その頃母子世帯は石川ビーチに集められていたが、折からの台風の最中その母子世帯の子供たちが、テントの棒を抑えながら泣いているのを見て、教員をやめて福祉を手がけることを決意したという。

(『沖縄・女たちの戦後』吉浜政子)

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
9月	<p>□越来村婦人会結成に取り組み、婦人会長に選任される／1日。</p> <p>私が越来村に移ったのは城間村長からの要請もあつてのことですが、私個人としては、当時の沖縄で戦災母子世帯の救済は何よりも優先しなければならぬと思っていましたから、越来村の婦人会長になって戦災母子世帯の救済活動を推進したいという気持ちが、私を強く動かししました。</p> <p>越来村に移ってすぐ、室川初等学校において越来村婦人会を結成し、私は村婦人会長になりました。婦人会はまず事業の一つとして売春防止に力を入れ、特殊婦人たちに売春をやめさせ、正業につかせるために運動しました。また母子世帯の救済と青少年の健全育成に力をつくすこととし、活動を始めました。</p> <p>(『島マスのがんばり人生』)</p>	
11月	<p>□米民政府社会事業課より越来村駐在の公衆社会事業委員（厚生員）に任命される／19日。</p> <p><b>福祉公職時代</b></p> <p>…厚生員には「市町村の婦人会長で人格高潔にして住民より信頼の厚い人」と米軍が条件をつけてきたから、厚生員には婦人会長の女性が任命された。これが戦後沖縄の社会福祉事業の出発だったと思う。救済の決定権も全部厚生委員に委託された。「村長と机を並べて監督しなさい」と言われたから、市町村長よりも権限は大きかった。私は困窮世帯の窮状に心を痛めていたが、同時に「乱給漏給」の弊害があることに気がついていて、これを是正する必要がある。早速実態調査に取りかかることにした。救済世帯、特に母子世帯を昼夜兼行で一軒ずつ訪問しての調査、そして集計、分析と骨の折れる仕事であった。ある日、夜の8時ころ母子家庭を調査しようと訪問した。17才の子を頭に7人の子供が、真っ暗なテントの中で寝ていた。</p> <p>「お母さんはどこ行ったの」と行き場所を尋ねると「黒人部隊の下の部落で働いている」という。この子たちの母親も食べるために身を売っているのかと思うと、悲しみと怒りで胸がいっぱいになった。いくら戦争を恨んでもあきたらなかった。「いくさ世どでむぬ、誰るゆ恨みゆが、愛児むい育て、ちむにすみり」と琉歌をよんで置いてきた。</p> <p>…私は救済世帯の実態を一つずつ記録して出来上がった調査書を持って、軍の救済係の所に行った。そして、救済世帯のワクを広げてくれるよう頼んだ。</p> <p>(『私の戦後史・第3集』)</p> <p>⊕「黒人部隊」～胡屋馬上原一帯（現沖縄市役所一帯）にあった米海兵師団工兵隊基地、黒人兵が多く住民からは「クロンボ一部隊」と恐れられた。1962年に開放された。</p>	<p>□自由企業制度が実施される。</p> <p>□米民政府は、各市町村に対し「公衆社会事業委員設置について」の通達を出す／15日。</p>

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
12月  <b>昭和24年</b> 1949  5月  6月  7月  8月  9月		<p>□沖縄婦人連合会（会長・武富セツ）が設立される／15日。</p> <p>□ひめゆり同窓会東京支部（1940年結成）を「東京ひめゆり同窓会」（会長・米須俊）に改称。</p> <p>□建築許可証の新指令「原住民建造物」（基地周辺1マイル以内建築禁止令）発令される。</p> <p>□グロリア台風来襲／23日。</p> <p>□建築禁止令撤廃のための中部地区第一次衛生強化道義高揚運動が実施される／14日。</p> <p>□警察署長会議は米兵犯罪防止と売春婦隔離のため米軍慰安施設（歓楽街）の設置を提唱する／23日。それに対し、沖婦連が歓楽街設置可否懇談会を開催／30日。</p> <p>□越来村婦人会が米兵犯罪防止と環境浄化を嘉手納航空隊隊長へ陳情する。</p>
<p>（この頃、民間地域の民家に売春婦が間借りし、それを目当てに米兵が部落に侵入して暴力沙汰がたえなかった）…当時の城間盛善越来村長と城間栄子婦人会副会長、そして私の3人は、ほとんど毎日というほど集まって対策を練っていた。環境浄化と青少年非行防止のために、早く手を打たなければならない。対策の一案として「特殊婦人を民間地域から立ち退かせたらどうだろう」という話が出た。すると、この話が黒人兵に漏れたらしい。村長宅を焼き打ちにするという噂が飛んだ。驚いた村長は、軍に訴えてMPを派遣してもらった。これでは一刻も猶予できない。軍に直接かけ合うことにした。英語の達者な城間村長と城間副会長、私3人で嘉手納航空隊のキンケイド少将をたずね、米兵の自粛と特殊婦人の退出を訴えた。「それでは、街外れの原野の八重島に特殊地域を作ろう。これが一番いい方法だ」という。キンケイド少将の意見に私たちも賛成せざるを得なかった。やむを得ない処置だった。条件として、経営者は児童を連れて行かないことを約束させた。</p> <p>…売春は確かに悪い。悪いことは誰だって知っている。しかし、背に腹はかえられないではないか。子供を7、8人も抱えた戦争未亡人は、夜も昼も働かなければ食べていけない時代だ。「やめろ」というのは簡単だ。が、それよりも先に変わるべき職業を与えてやるのが、私たちの役目ではないだろうか。そんなことから私は特殊婦人の更生に手をかすことにした。</p> <p>（『私の戦争史・第3集』）</p>		

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
11月		□沖縄厚生園設立。
12月		□軍首脳部は商取引のテストケースとして越来村にビジネスセンターの建設を指示／8日。
<b>昭和25年</b> 1950		
2月	□厚生員が米軍政府から民政府へ身分移管され、社会事業課事務官補に任命される／1日。マス 50 歳。	□米軍指令第 4 号により米軍人・軍属との商取引が自由になる。 □八重島特飲街形成される。 □朝鮮戦争勃発。
6月		
7月		□コザ・ビジネスセンターの建設始まる／8日。
9月	□米軍政府より日本社会事業大学へ第一回研修生として 50 日間派遣される～社会事業資質養成のため社会福祉一般、児童心理、児童福祉、精神衛生などを学ぶ。	
11月		□沖縄群島政府創立／4日。
<b>昭和26年</b> 1951		
2月		□琉球大学開学。
3月	□群島政府社会事業課から児童福祉司の資格を与えられる。	
4月		□沖縄職業学校（後の沖縄実務学園）設立される。
9月		□厚生部社会事業課に児童係設置、那覇とコザに児童福祉司各 1 名を配置。
10月	□コザ軍事裁判所の児童審理に立ち会う児童取扱指導員（児童福祉司）となる／1日。	
11月		□沖縄群島社会福祉協議会設立される。
<b>昭和27年</b> 1952		
2月		□八重島区子供を守る会（比嘉保栄）結成される。
4月	□社会福祉司制度の発足により社会福祉司（後の社会福祉主事）の資格を与えられる／1日。 □琉球政府発足により厚生局民生課所属となる。	□琉球政府創立。 □八重山社会福祉協議会発足。 □サンフランシスコ講和条約発効される／28日。 □沖社協、第 1 回共同募金運動実施。
6月		
7月		□文教局、訪問教師制度発足～中部での第 1 号は兼城和（具志川）
12月	□胡屋区に民間初の一時保護所として「胡屋児童保護所」を開設（施設運営は群社協の協力を得て島マスは教母を兼任、有剛氏は群社協嘱託、児童福祉司の徳田賢隆氏で運営する）。	□吉原飲食街できる。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
	<p>・・・私の家にはたくさんの子供（軍裁判から身柄を引き取った子供たち）が集まり、まるで施設のような。夫は家族の分と子供たちの食糧集めに駆けずり回っていた。家も狭くなっていく。これでは何としても一時保護所が必要だ。私はつくづく感じたのである。私たち夫婦は、児童保護施設を自分の手で作ることにした。コザ署の隣の50坪の土地を中根光男氏（前沖縄市助役）からタダ同然で借り、夫が大宜味村塩屋にある9坪の家を買った。この家を塩屋の篤志家3人が、わざわざコザまで運んでくれた。突貫工事が行われ、昭和20年10月に完成。しかし、建物は出来たものの内部設備や外装までにはとても手が回らない。私たちが困っているのを見かねたのだろう。コザ署軍裁判関係の二世の人達が協力を申し入れてくれた。畳が入れられ、ペンキが塗られるとスマートで住み心地の良さそうな建物に変わった。年の瀬も押し迫った12月に「コザ児童保護所」を発足させることができた。開所と同時に、警察、訪問教師、婦人会、新聞記者が児童をわんさと連れてくる。それも昼夜の別なしにだ。夜中に起こされて子供を引き取るのはしょっちゅうだった。</p> <p>（『私の戦後史・第3集』）</p>	
<b>昭和28年</b> 1953		
1月		<input type="checkbox"/> 沖縄群島日本復帰期成会発足、第1回祖国復帰県民総決起大会を開催。
3月		<input type="checkbox"/> 宮古社会福祉協議会発足。 <input type="checkbox"/> 売春横行を理由に越来村に初めての夜間オフ・リミッツ発令される／29日。
4月		<input type="checkbox"/> 真和志村安謝区の土地接收始まる／11日。 <input type="checkbox"/> 越来村社会福祉協議会結成（任意団体）／28日。
5月		<input type="checkbox"/> 越来にコザ愛児園（園長 山内盛武）開園。
7月	<input type="checkbox"/> 胡屋101番地に民間の女子教護施設として「コザ女子ホーム」を開設、教母を兼任する／13日。	
	<p>胡差児童保護所の悩みは、同じ施設に問題を抱えている男女の児童を長期にわたって収容しなければならなかったことです。男の子は厚生園なり、職業学校なりへ送ることが出来たが、女子の救護施設がなかったのです。一時保護所とは分離した形で女子救護施設をつくる必要に迫られました。たまたま、胡屋の元中央病院の薬品倉庫だったコンセット二棟を、安仁屋政守さんの職業学校に払い下げるとい話がありました。何と、このコンセットというのが胡屋の私の屋敷の隣に建っていたものです。その敷地も私どもの土地でした。私は安仁屋さんに相談して、その一棟を譲り受けることにしました。ところが、このコンセットは倉庫でしたから居住としてはとても使えません。私は、これまで児童保護所で取り扱ってきた女子のケースや統計をそろえて琉球政府へ提出し援助を求めました。しかし、政府予算はすでに成立しているため、半年後の補正予算で運営費の補助をする話でした。他に援助を求めるしかありませんでした。USCARには、か</p>	

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
	<p>ねてから女子児童の福祉を強調指導してきた山崎亮一社会事業課長や同僚の宜野座女史がいました。私は事情を訴えました。二人は、二世などの協力を得て1万2千2百円の寄付金を集めてきてくれました。私たち夫婦も親戚、知人友人から8千円を借り集めて、どうにか改装することが出来ました。内部の施設については、敷物も夜具もありませんでした。私と安仁屋さんはコザの商店をまわり、また街頭で、「みなさんのお力添え」を訴えました。まるで、「ムヌクーヤー」（乞食物ごい）といったスタイルでした。…多くの人々の援助によって施設が整備されました。中根章さんから地域の青年たちも、戦争で埋まってしまった井戸をきれいに清掃して使えるようにしてくれました。地域の人たちは労力と共に食糧や衣服も提供してくれました。</p> <p>ただちに8人の女の子たちを引き取って施設の運営を始めました。            (『島マスのがんばり人生』)</p>	
10月 11月 12月 <b>昭和29年</b> 1954	<p>□コザ中学校PTA副会長に選任される／15日。</p> <p>□文部省主催の社会教育指導者協議会に戦後初の婦人代表として瑞慶覧ツル、砂川フユ、宮里悦など12名と共に派遣される。その時、一行は来日中のニクソン米副大統領に沖縄の日本復帰を要請。</p>	<p>□生活保護法、児童福祉法が制定される。</p> <p>□米軍司令部はAサイン制度を実施する／3日。</p> <p>□社会福祉事業法、身体障害者福祉法が制定される／9日。</p> <p>□沖縄子供を守る会発足／18日。</p> <p>□奄美大島日本復帰／25日。</p>
3月 4月 5月 7月 9月 10月 <b>昭和30年</b> 1955	<p>□中央児童相談所の設置により「胡差児童保護所」を廃止。</p> <p>□「コザ女子ホーム」が政府へ移管され沖縄実務学園女子部となる～教護に島有剛氏が任命される。</p>	<p>□米民政府は軍用地代一括払いの方針を発表／17日。</p> <p>□中央児童相談所の設置される。</p> <p>□胡屋保育園（園長 我謝ヒデ）開園／10日。</p> <p>□琉球立法院は土地問題に関する四原則を打ち出す／30日。</p> <p>□第1回児童福祉週間実施。</p> <p>□沖社協、中部福祉地区を設定すると共に福祉事務所を設置（1956年10月にはコザ福祉地区に改称）</p> <p>□琉球放送による民間ラジオ放送開始。</p>
1月 3月		<p>□沖社協、社会福祉法人に認可。</p> <p>□米民政府は「刑法並びに訴訟手続法典」を公布／16日。</p>

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
4月		□中部で幼稚園協会（会長・池原ツル）結成される。
6月		□米軍認可によるAサイン飲食店ブームが起こる。
7月		□宜野湾村伊佐浜の土地接收始まる／17日。
8月		□越来村、都市計画法の適用都市に指定される／30日。
10月	□沖縄実務学園女子部救護となる。	<p>大城立裕の小説「白い季節」が琉球新報に連載される。</p> <p>大城は文中、島マスをモデルにした田村女史を「元気で気さくなばあさんだとももった。けれ気がない。社会事業そのものが生活にしみこんだという感じを与える」と記述している。</p>
<b>昭和31年</b> 1956		
6月		□プライス勧告が発表され、島ぐるみ土地闘争が始まる。
		□越来村からコザ村へ名称変更される／13日。
		□琉球立法院において「コザ村をコザ市に昇格する」行政処分議案が可決される／16日。
7月	□沖縄実務学園女子部を中央児童相談所に合併、それによりコザ女子ホームは「コザ少女の家」に名称を変更。同所の児童相談所指導員となる／10日。	□コザ市誕生（人口 35,226人）
8月		□プライス勧告反対住民大会への報復処置として中部地区に経済封鎖無期限オフ・リミッツ発令。
<b>昭和32年</b> 1957		
1月	□琉球上訴裁判所より家庭裁判所調停員に選任される／1日。	
2月		□中部地区社会福祉協議会結成される／18日。
6月		□高等弁務官制度実施／5日。
7月	□中央児童相談所を依願退職／31日。	
	<p>中央児童相談所を退職したのは、沖社協理事の嵩原久男氏から「中部社協を設立してもらえないだろうか」と頼まれたからである。「お母さんいかないで」と、少女たちが泣きながら止めてくれるのを押し切るのはつらかった。</p> <p>（『私の戦後史・第3集』）</p>	
	<p><b>地区社協活動期</b></p>	
8月	□中部地区社会福祉協議会（中社協）の専任職員となる／1日。マス 57歳。	

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
	<p>…職員は私のほかに新川秀清と金城武子さんがいた。中部福祉事務所の一室でスタートした。</p> <p>私が福祉事業の道へ入ったきっかけは、不幸な母子家庭をどうにか救いたいと思ったからである。これまで生活保護世帯、青少年非行、混血児、売春問題と取り組んできていたから、今度は地域の福祉活動をやらなければと考えていた。それには福祉協議会で働くのが一番だった。ちょうどその頃は、生活保護から始まった戦後の社会事業が、時代と共に変わりつつあった。これまでの「不幸な人々の救済」から「問題を起こす原因を排除する活動」という考え方になっていた。すなわち予防社会事業の発達である。</p> <p>(『私の戦後史・第3集』)</p>	
昭和33年 1958	9月 □中社協、各市町村社協の組織調査を実施する。	
10月		□「少年法」「少年院法」公布。
12月		□沖社協、各市町村に福祉委員（後の民生委員）を設置する。
1月	□中社協、総合社会調査を実施。その結果地区の問題点を婦人、児童問題として掌握する。	□コザ福祉事務所の出張所が各市町村に設置される。
4月	□中社協、「婦人児童福祉委員会」を設置、問題児や特殊婦人対策に取り組む。	
5月	□国際社会事業団沖縄代表部がコザ市に設立され理事となる／5日。	
6月	□琉球政府社会局長より民間社会福祉に寄与した功績で表彰される。	□3郡島社協が統一して沖縄社会福祉協議会となる。
9月		□第一回コザ市長選挙、大山朝常当選する。
10月		□環境浄化、教育関係8団体が売春防止法制定を立法院に陳情する。
11月	□中部地区社会福祉協議会の事務局長に就任／15日。マス58歳。	
	<p>中社協副会長の時、マス先生に呼ばれて福祉協議会の予算・事業計画について話し合った。先生の事業計画を聞いて驚き、財政的にも無茶だと思い、計画縮小すべきだと考えた。先生は、「戦争によって最も犠牲を受けたこの不幸な人達の対策は必要というよりもやらねばならないことだ」と説かれ、「対策をたてるためにはまず実態の調査が必要」と主張され事業計画の縮小を強く拒まれた。結果としてはほとんどの事業が計画通りに執行された。</p> <p>(崎山 盛永)</p>	
	□全社協の国際社会事業研究会に日本代表として参加（研究部会は「今日の世界における婦人の地位」）／17日。	

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
11月  12月  <b>昭和34年</b> 1959  5月  6月	<p>開会式の日琉球新報のインタビューに島先生は、「地域社会リーダー養成、婦人の地位の問題などに重点をおいて会議に臨んできたが、沖縄の場合は何れの問題でも遅れてはいないということを感じた」と話した。</p> <p style="text-align: right;">(山崎 亮一)</p> <p>Ⓢ研究会に出席した島マスは、沖縄では手に入らない「社会事業用語辞典」を大量に購入し友人や知人に贈る。</p> <p>□厚生省の国際児童研究会に日本代表として参加／19日。</p> <p>□沖縄婦人連合会より婦人会の発展に尽くした功績で表彰される。</p> <p>□中社協、沖縄で初めての「社会福祉地図」を作成し、地区の福祉に欠ける現状と課題を明らかにする。</p>	<p>□沖縄保護司連盟結成。</p> <p>□石川市宮森小学校に米軍ジェット機墜落／30日。</p>
	<p>当地域は戦前閑散な農村で住民の生活も極めて簡素な生活を送っていたのだが終戦とともに此の地域の周辺には大規模な軍施設が立ち並び他市町村よりの寄留者が多く入口は激増し此の市町村の殆どが基地経済に依存し、住民の生活実態が一様でなく安定感を失っている現状におかれているので、此処ではいろいろな社会問題特に児童問題が毎日のように新聞に報道されていることは周知の通りである。此の地域こそ社会福祉事業の対象の地域であることは言うまでもない。その対象を明確に把握することによって適正な福祉対策が打ち立てられるのである。1958年度の事業として社会調査を行ったのであるが、単に調査に終わらずこれを実施に移すには地域住民にあるので住民一人一人が容易に自分たちの「福祉に欠ける状態」を発見せしめるために福祉地図作製の必要が痛感されたのである。…此の福祉地図によって中部地区に於ける問題が解決されたのではなくこれによって各市町村の「福祉に欠ける状態」を発見したに過ぎないのである。各市町村社協は自分たちの村の問題の重点活動すべき点を全住民で協議し住民のニードによりあらゆる社会資源を利用し実行に移すことによって目的が果たされる…。</p> <p style="text-align: center;">(『中部地区社会福祉地図 前書き』)</p>	<p>市町村社協を動かす手段として中部地区の福祉問題地図を作成したが、これは予想以上の説得力を持った。市町村それぞれの福祉問題を詳細に図示し、他市町村との比較等によって問題を浮き彫りにする仕組みのこの問題地図は、眠っている市町村社協が活動を始めるきっかけとなった。</p> <p style="text-align: right;">(親川 富蔵)</p>

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
7月 9月 12月 <b>昭和35年</b> 1960	□中社協、市町村社協・福祉担当者の連携・研修を目的に「中部地区社会福祉事業研究会」を結成～「島学校」と呼ばれる。	□沖社協の提唱により「としよりの日」の設定と「老人福祉週間」が始まる。 □コザ市琉米親善センター完成。
1月 4月 5月 6月 9月 12月 <b>昭和36年</b> 1961	□コザ婦人会長より婦人会の発展に尽くした功績で表彰される。  □中社協、「中部地区幼児園協会」を結成する。  □中社協、ボーダーライン対策の一環として各市町村の困窮所帯調査を実施、台帳を整備させる。	□沖縄県祖国復帰協議会が結成される／28日。 □米下院、琉球経済援助法を可決。  □沖社協は第二回老人福祉週間に老人クラブの設置を企画・提唱する。 □アイゼンハワー米大統領来沖。 23日には日米新安保条約発効される。 □沖社協、各市町村に敬老見舞金制度の設置を呼びかける。
1月 5月 7月 9月 12月 <b>昭和37年</b> 1962	□中社協内に「生活相談所」開設。 □中社協、「中部地区婦人社会事業研究会」を設置。 □コザ中学校PTA会長と校長よりPTA会長功績により表彰される。  □全琉社会福祉大会長より地域福祉の発展の功績により表彰される。	□沖縄で最初の老人クラブ「若水会」(若狭)誕生。 □「こどもの日」法定休日となる  □「としよりの日」法定休日となる。  □宜野湾市制発足。  □沖縄老人クラブ連合会結成される(県下30クラブ)。  □公立保育所設置推進協議会が結成される。  □北中城村に諸聖徒保育園(園長 前田次郎)開園。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
<b>昭和38年</b> 1963		
1月	□胡屋区長と胡屋婦人会より感謝状を受ける。	
3月		□キャラウエイ高等弁務官が金門クラブで「自治権神話」演説、キャラウエイ旋風吹き荒れる。 □国場君擲殺事件の米兵に無罪判決、抗議行動広がる。
5月		□沖社協と沖老連が老齢福祉年金獲得運動開始。 □沖縄母子センター開所。
6月	□労働局婦人少年課の補助員に委嘱される。	
7月	□中社協、「特殊母子対策委員会」を結成し、特殊婦人・母子の福祉と特飲街の浄化に取り組む。	
8月	□中部地区幼稚園協会長より幼児教育に貢献したことで表彰される。	□Aサイン新基準が施行される。
9月	□中社協、精薄児の教育訓練のため「土曜学校」をコザ市のバプテスト教会に開設。 この年、市町村老人クラブ結成指導に奔走する。	□読谷村波平の「老友会」結成を皮切りに中部市町村老人クラブの結成が活発化する。
<b>昭和39年</b> 1964		
3月	□沖縄婦人連合会から母子福祉センター運営委員に委嘱される／31日。	
6月	□中社協、創立7周年を記念して『中部の福祉概況』を発足する。	
8月		□米軍ベトナム戦争に介入、トンキン湾事件起きる／4日。
10日		□具志川に安ヶ田保育所開園。
<b>昭和40年</b> 1965		
6月		□沖縄私立保育所連盟結成。
8月		□佐藤総理来県、「沖縄が帰らなければ日本の戦後は終わらない」と演説。 □コザ市老人クラブ連合会結成。
<b>昭和41年</b> 1966		
5月		□老人福祉法が制定される。 □沖縄保母の会が結成される。 □米軍の大型ジェット空中給油機が嘉手納基地近くで墜落。
7月		□中部地区社協が廃止され沖社協に統合される。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
		<p>1957年から9年間にわたって地区社協は市町村社協の育成と連絡調整に大きな役割を果たしてきたが、沖社協は財政事情や統一的な指導體制の確立などの理由により、地区社協の廃止を決定。それに対し中部地区社協は北部地区社協と共同で立法議員に働きかけるなど存置運動を展開した。</p>
8月	□地区社協の統合により、沖社協中部地区事務所の所長となる／31日。	□沖社協中部地区事務所設置。
9月	□沖縄社会福祉協議会中部地区事務所を依願退職／1日。マス 66歳。	
10月	□中部地区市町村会より社協育成と児童福祉発展の功績により表彰される。	
昭和42年 1967	<div data-bbox="376 824 778 898" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <b>地域福祉活動時代</b> </div>	
	□沖社協の中部地区福祉対策委員会（委員長・大山朝常コザ市長）が設置され、副委員長に就任する／10日。	□中部地区老人クラブ連合会が結成される。
11月		
12月	□コザ市子どもを守る会より青少年健全育成の功績により表彰される。	
1月		□「教公二法阻止県民共闘会議」結成される。
2月	□福祉活動の拠点をつくろうと中部地区老人福祉センター建設のための募金活動を始める。	
3月	□第10回全沖縄社会福祉大会に於て社会福祉功労者として表彰される／17日。	
5月		□嘉手納村屋良で燃える井戸事件発生、基地公害問題起こる。
6月	□行政主席より売春防止対策審議委員に委嘱される／21日。	
7月	□沖縄タイムス大賞（社会奉仕賞）受賞。	□大城立裕、沖縄から初の芥川賞を受賞する。
9月		□高齢福祉年金の支給開始。
11月		□復帰協は「即時無条件返還要求県民総決起大会」を行なう。
昭和43年 1968		
5月	□中部地区老人福祉センター建設期成会結成、会長に就任する。	
7月	□行政主席より保護司に委嘱される。	□具志川市制発足。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
11月		<input type="checkbox"/> 初の公選主席に屋良朝苗氏当選する／10日。 <input type="checkbox"/> 嘉手納基地内でB52爆撃機炎上爆発。B52爆撃機撤去県民運動が広がる／19日。
<b>昭和44年</b> 1969		
1月	<input type="checkbox"/> 琉球高等裁判所より家事調定委員に選任される。 <input type="checkbox"/> 沖縄社会福祉協議会より共同募金の功績により感謝状を受ける。	
3月		<input type="checkbox"/> 中部地区の福祉活動の拠点になる中部地区老人福祉センター落成。
4月		<input type="checkbox"/> 沖縄母子福祉連絡会（会長・照屋秀）が結成される／6日。
7月		<input type="checkbox"/> 沖社協、沖縄社会福祉事業研究会（沖福研）を発足。
10月		<input type="checkbox"/> 母子保健法制定。
<b>昭和45年</b> 1970		
4月	<input type="checkbox"/> 内閣総理大臣より勲六等宝冠賞授与される／29日。	
5月	<input type="checkbox"/> ひめゆり同窓会有志、婦人ボランティアで青少年の非行化防止、母子家庭の支援・奉仕活動を目的に「中部地区婦人福祉の会」を結成、会長に就任する／31日。	
6月	<input type="checkbox"/> 行政主席より売春対策審議会委員に委嘱される。 <input type="checkbox"/> コザ市遺族連合会の会長に就任する／13日。 <input type="checkbox"/> コザ保健所運営協議会委員に委嘱される／24日。	
7月	<input type="checkbox"/> 沖社協婦人児童委員に委嘱される。 <input type="checkbox"/> 沖縄少年友の会理事となる。	<input type="checkbox"/> 売春防止法公布される。
11月	<input type="checkbox"/> コザ市老人クラブ副会長に就任する。	
12月		<input type="checkbox"/> コザ反米騒動起こる／20日。
<b>昭和46年</b> 1971		
3月	<input type="checkbox"/> 沖社協が「売春対策沖縄県連絡協議会」を設置、委員となる／11日。	
5月		<input type="checkbox"/> 沖縄返還協定粉碎ゼネスト。 <input type="checkbox"/> 民生委員法制定。
6月	<input type="checkbox"/> 琉球政府より売春対策推進委員（7人）に委嘱される／29日。	<input type="checkbox"/> 沖縄返還協定、日米で同時調印される。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
6月	<p>県の売春対策推進委員だった私は、その実施が近づくにつれ啓蒙運動で忙しくなった。沖社協や政府の担当職員と一緒に防止法の説明、業者の転・廃業問題、そして特殊婦人の前借金問題と説明会や懇談会に昼夜兼行で奔走した。日本本土ではすでに昭和31年に制定されていたから、私は対策や方法などを学び東京へ出張した。その時、本土のマスコミがこぞってインタビューに来る。防止法がまだ施行されていないから「売春天国」とでも思っていたのであろう。興味半分で聞かれているようで嫌だった。</p> <p>だが、防止法がある本土でさえトルコぶろ、キャバレーなどと形を変えて売春が行われているのではないかと、腹を立ててみたところで職種が狭い沖縄では、それも前借金が絡んでいてはいかにして売春防止法の徹底を図っていけばよいのか。法律以前の問題が余りにも多かった。</p> <p>(『私の戦後史・第3集』)</p>	
8月		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ドル・ショックで沖縄経済混乱。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>□中部地区更生保護婦人会を結成し、会長に就任する／4日。</li> <li>□中部地区老連より老人センター建設の貢献により表彰される。</li> </ul>	
昭和47年 1972		
1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>□東峰夫『オキナワの少年』で芥川賞受賞／20日。</li> </ul>
2月		<ul style="list-style-type: none"> <li>□沖縄県民生委員協議会連合会が結成される。</li> </ul>
4月		<ul style="list-style-type: none"> <li>□第1回売春をなくす運動実施される。</li> <li>□沖縄県共同募金会設立される。</li> <li>□新川秀清氏、コザ市経済民生部長に就任。</li> </ul>
		<p style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;">中社協で島マスの指導を受け福祉思想を継承する。1990年沖縄市長に当選、平和・福祉を基調にする「人にやさしい街づくり」を進める。</p>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>□琉球高等裁判所より家事調停員の功績により表彰される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□沖縄問題解決のため婦人実行委員会、市川房枝らが参加し売春から婦人を解放する婦人集会を開催、集会後にコザ市で売春防止キャンペーンを行う／6日。</li> <li>□沖縄の施政権返還される／15日。</li> <li>□コザ社協が社会福祉法人へ移行する。</li> <li>□「コザ市、浦添市、宜野湾市、具志川市、石川市及び中頭郡老人福祉センター運営協議会」発足。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>□コザ市老人福祉センター運営委員に委嘱される。</li> </ul>	

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
8月		□婦人保護施設「沖縄県うるま婦人寮」開所。
10月	□コザ市長より国民健康保険運営協議会委員に委嘱される。	
11月	□沖縄県共同募金会の委員に委嘱される。 □コザ市長よりコザ市民生委員推薦協議会委員に委嘱される。	
	この年、泡瀬カトリック教会で洗礼を受け、フランシスカの霊名を受ける。	
<b>昭和48年</b> 1973		
3月	□コザ市赤十字奉仕団委員長に委嘱される／17日。	
4月	□沖縄県更生保護婦人会連盟設立、初代会長に就任する／26日。	
5月		□復帰記念特別国体「若夏国体」開催される。
6月	□コザ市社会福祉協議会の理事に就任する／15日。	
8月	□中部地区老人クラブ連合会副会長に就任する。	
9月	□老人クラブの婦人リーダー養成の研修活動に力を入れる。 □九州地方更生保護委員長より更生保護事業の功績により表彰される。	
<b>昭和49年</b> 1974		
4月		□コザ市と美里村が合併して沖縄市発足。
6月		□沖縄市、「和泉母子寮」開所。
9月	□沖縄県売春対策推進委員（中部地区担当）に委嘱される／20日。	
11月		□沖縄県売春対策本部設置。
12月		□沖縄市、心身障害児童生徒就学適正指導委員会を開催。
<b>昭和50年</b> 1975		
1月		□国連「国際婦人年」を宣言。
5月	□全国厚生保護連盟より表彰される。	
7月		□沖縄国際海洋博覧会開幕。
8月	□福岡矯正管区長より篤志面接委員に委嘱される／18日。	□運営協、「中部老人福祉の展望」を発行。以後年一回発行する。
<b>昭和51年</b> 1976		
2月	□市社協より沖縄市社会奉仕活動運営委員に委嘱される／13日。	

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき	
6月		□復帰後2度目の知事選で平良幸市当選。	
11月	□社会福祉法人「こばと福祉会」理事長に就任する／3日。		
昭和52年 1977			
	3月	□沖縄県遺族連合会より表彰される。	
	4月	□沖縄市福祉大会長より地域福祉に貢献したことにより表彰される。	
	4月	□社会福祉法人「愛育福祉会」理事に就任する。	
5月	□日赤沖縄県支部長より沖縄市奉仕団結成の貢献により表彰される。		
7月	□老年医学博士・音楽療法の田中多間先生に出会い、音楽療法を老人クラブ活動に導入、瑞慶覧ツル、池原ツルとともに中部地区歌声サークル活動に取り組む。	□沖縄市、「働く婦人の家」開所。	
9月	□沖縄県老人クラブ連合会より老人クラブ発展の功績により表彰される。		
12月	□沖縄県精神薄弱児育成会より会の運営に貢献したことにより表彰される。		
昭和53年 1978			
	2月		□沖縄市社協、第1回社会福祉大会を開催／24日。
4月	□社会福祉法人愛育福祉理事に委嘱される。 □法務大臣より非行少年の更生保護の功績で感謝状を受ける。		
6月		□平良知事、国立長寿の村の誘致要請を行う。	
7月		□沖縄整枝療護園中部分園開園。 □交通方法の変更実施される。	
12月		□平良知事病氣退任により西銘県政スタート。	
昭和54年 1979			
	1月		□国際児童年開幕。
4月	□市社協よりハンディキャブ運営委員長に委嘱される。		
5月		□沖縄市、老人介護事業開始。	
7月	□法務大臣より矯正施設の教化活動の功績で感謝状を受ける。	□沖縄市、キャンプ・ヘーグ跡地利用に「老人の園」構想打ち出す。	
9月	□琉球新報賞（青少年保護と更生保護事業）を受賞。		

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
	<p>受賞を知った女子ホーム出身の女性が「更生の母に送る詩」を新聞に投稿する。</p> <p>お母さん あなたの尊い心が きらきら輝いています 愛と夢をもぎとられ 悪の吹き溜まりへと 引きずられたあわれな幼魂に 心のぬくもりと人の道を開いて 優しくさとしてくれたあなた</p> <p>お母さん あなたの成す業が きらきら輝いています 己の生活をも捨て 日夜地獄の底をさまよう幼魂に かぎりない愛と生きる喜びを さとした寛大なあなた</p> <p>おお母よ あなたのはぐくむ果てなき愛は あわれ傷心のさとりを知らぬ幼稚な者らに 博愛の心を開き安らぎを与え 悪を成す業を心から憎み 正道を愛した勇氣あるあなた</p> <p>おお母よ あなたの愛は 新しい愛の息吹を注ぎ 見事に芽生えました おお母よ あなたの愛は尊く その業は偉大でした お母さん 心の愛をありがとう</p>	
10月	□沖縄女子学園長より感謝状。	
11月	□沖縄県功労賞（社会福祉功労）を受賞。	
<b>昭和55年</b> 1980		
4月		□北谷、勝連町制発足。
8月		□県社協、沖縄県地域福祉委員会発足。
12月	□国際福祉沖縄事務所の顧問に就任。	□財団法人沖縄県福祉振興基金創設。
	□社会福祉法人国際福祉会より会運営への貢献により感謝状を受ける。	□沖縄市、障害者福祉都市に指定される。
<b>昭和56年</b> 1981		
1月		□国際障害者年開幕。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
3月		□沖縄市民会館落成／10日。
8月		□沖縄市障害福祉都市推進協議会発足／26日。
10月	□浦添市小湾老人クラブ鶴亀会より会運営への貢献により感謝状を受ける。	□沖縄戦当時6才未満の戦病者、戦没者の遺族への援護法適用が発表される。
12月	□全国老人クラブ連合会より老人福祉向上への貢献により表彰される。	□北谷町の米軍ハンビー飛行場が返還される／30日。
<b>昭和57年</b> 1982		
6月	□石川市伊波区自治会より児童体育館建築への貢献により感謝状を受ける。	
8月	□中部市町村会より社会福祉への貢献により表彰される。	
12月	□越来小学校百周年記念事業期成会より感謝状を受ける。	
<b>昭和58年</b> 1983		
3月	□社会福祉法人愛育福祉会より感謝状を受ける。	□沖縄市老人福祉センター、保健相談センター開設。
8月	□財団法人沖縄三悪追放教会創立15周年記念大会より感謝状受ける。	□沖縄市、外国人に国保適用開始。
12月		□沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会結成される／8日。
<b>昭和59年</b> 1984		
1月		□中城湾港新港地区の公有水面埋立第1期工事着工／11日。
4月	□沖縄市市制10周年にあたり社会事業への功績で表彰される。	□沖縄市文化センター開所／21日。
5月		□沖縄市シルバー人材センター設立／16日。
		□父母両系血統主義採用の国際法、戸籍法改正案が参院で可決成立／18日。
11月	□那覇保護観察所長より更生保護と犯罪防止への功績により感謝状を受ける。	
12月	□胡屋老人クラブ寿会より老人クラブの指導育成への功績により感謝状を受ける。	
<b>昭和60年</b> 1985		
1月		□第1回沖縄市福祉まつり開催。
4月		□沖縄市、中央パークアベニュー完成。
5月		□沖縄市福祉団体連絡協議会結成される。
<b>昭和61年</b> 1986		
1月	□日本赤十字社沖縄県支部より地域奉仕団の結成促進の功績により表彰される。	
4月		□市社協、ボランティア事業開始する。

年/月	島マスの軌跡	社会のうごき
11月	□沖社協創立 35 周年に当たり沖縄の福祉を育てた 70 名に選定される。	□島マス先生回想録編集委員会（委員長・新川秀清、主筆・安仁屋政昭）が『島マスのがんばり人生～基地の街の福祉に生きて』を出版する。
<b>昭和62年</b> 1987		
4月		□市社協、地域老人福祉システム開発育成事業（プラン 80）開始。 □県長寿社会対策本部設置。
5月		
6月		□カテナ基地を人間の輪で包囲する大行動実施／21 日。 □第 42 回国民体育大会開催／20 日。
9日		
10月		□沖縄自動車道開通／8 日。
11月		□第 2 3 回全国身体障害者スポーツ大会（かりゆし大会）開催／14 日。
<b>昭和63年</b> 1988		
6月		□県は、長寿社会対策大綱「人生 80 かりゆしプラン」を策定。
7月	□教職 29 年、公務 9 年、社会福祉事業に 31 年携わり 88 年の生涯をとじる／8 日。	

### 島マス年譜 第1次

2001年2月1日

発行 島マス生誕百年祭実行委員会  
編集 島マス資料編集部会

### 参考・引用資料

『島マスのがんばり人生』 島マス先生回想録編集委員会  
『沖縄の社会福祉40年』 沖縄県社会福祉協議会  
『中老連20周年記念史』 中部地区老人クラブ連合会  
『コザ市史』 コザ市役所  
『沖縄市史 第8巻』 沖縄市教育委員会  
『コザ・戦後街づくり年表』 津野武雄編著  
『私の戦後史・第3集』 沖縄タイムス  
『戦後50年・おきなわ女性の歩み』 沖縄県  
『沖縄・女たちの戦後』 沖縄婦人運動史研究会

## 島マス生誕百年祭実行委員会事務局

沖縄県社会福祉協議会内 ☎(098)937-3385(代)